

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103111		
法人名	有限会社國村不動産		
事業所名	グループホーム愛の里		
所在地	高松市上福岡町2005-11		
自己評価作成日	令和6年1月28日	評価結果市町受理日	令和6年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-11
訪問調査日	令和6年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・くもん学習療法の取り組みを取り入れて、利用者様とのコミュニケーションの時間を大切時柔軟な気持ちで取組んでいる。また生活の目標や学習の目標を毎月設けながら見直し、より一層支援が出来るように心掛けている。個々に合った学習教材の調整、実施により少しでも認知症の進行予防に努めている。
 ・コロナ禍には外部の方々による慰問行事は行えなかったが、コロナ禍前と同様に、施設入所後も、少しでも季節や外部との交流を感じて頂ける様に、感染症対策を行いながらドライブでの桜、薔薇、紅葉見学、節分、節句の行事や御誕生日会、ドリップコーヒーを御出しする時間も検討、実施してきた。
 ・健康管理、受診等は基本、家族様としていたが、施設の主体が今まで以上に増えている。業務体制の工夫に努め、個々の希望により往診契約や、その対応も増えている為、医療連携も年々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

3階建ての事業所は、市街地の通行量の多い交差点のほど近く、利便性が高く静かな場所にある。理念の「笑顔で過ごしましょう」と認知症介護10項目を基本に運営がなされている。医療機関と連携して、介護度の高い利用者にも対応、希望に応じて看取り介護も行われている。食事は利用者の摂食状況に合わせ、口からの摂取にこだわり、手作りされている。一人ひとりの利用者の出来ることに着目し、くもん学習療法、体操、レクリエーション活動が盛んに行われている。運営推進会議の参加者に、元利用者の家族が多数おられるなど、防災やイベント、行事など強い協力体制が築かれ受継がれている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスとしての意義を踏まえた理念というよりは、認知症対応型共同生活介護の場として、認知症利用者様にとってより良い環境、影響となり得るための理念である印象が強い。理念の周知、共有は心掛けてはいるが実践にはムラが感じられる	理念と認知症の介護10項目を基に実践目標をもって実践に取り組まれている。ミーティングや会議では人の命を預かることの重みなどについても、職員に周知して意思統一が図られている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も重なり、今まで実施できていた地域交流、レクリエーションの厳しさが見られている。少しずつ外出行事として利用者様と一緒に散歩や花の確認に出た際、地域の方々と挨拶、繋がりを意識してもらえるように心掛けている	コロナ禍以前のような外出や交流は進んでいないが、少しずつ取組みが再開されている。近所へ散歩に出かけ挨拶したり、梅や咲いた花を鑑賞されたりしている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に推進会議の場では利用者様状況、状態の変化も例に出し理解や支援方法を知って頂くようにしている。また地域の方々の窓口にもなれるように、御伝えして頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	事例紹介等も含め、利用者様の状況やサービスについてを報告している。また質問にも応じ、説明を行った。認知症症状の程度、重度化についての紹介、高齢化、多くの利用者様に起きてくる排泄問題などについて	年度ごとにテーマを持って会議がなされている。参加者の一人ひとりに意見を聞き、記録もされている。事業所も地域社会も高齢者による重度化の傾向が強くなっているが、地域社会の問題も協力して取り組む機会となっている	地域ニーズとして、防災や住民の高齢化に関心が寄せられており、事業所が協力できる機会が増えている状況がみられます。運営推進会議をきっかけに、研修会の実施や合同訓練の実施など、共同で出来る地域交流の発展に期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問、心配になったこと等は担当者様へと電話、教授して頂き、積極的に協力関係が築ける様に努めている	事業所に必要な情報は役所に電話して教わっている。運営推進会議に職員が参加して市の情報を伝えたり、事業所の現状を理解してもらえる機会となっている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員が理解を深める為、勉強会での確認、実際の現場でも拘束であるか否かを常に振り返りながらケアに取り組んでいる。また身体拘束以外の部分にも目を向け、拘束廃止を意識している	年間研修計画に合わせ、身体拘束をしないケアの職員研修を続けられており、マニュアルの見直しや、新しい情報など定期的に加えられている。現在拘束と思われる行為は見られず、車いすは移動手段として、座るときは椅子に統一するなど事業所内で考え、実行に繋がられている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学びの機会を繰り返し持ち、話し合うことで虐待を見逃さない、虐待に繋がらないような日常に注意を払い、防止の意識を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援事業や制度について学ぶ機会の確保、りかいの促進を施設として機会を持つのは中々厳しい。自主的な学びの機会の確保も難しい。少しでも機会を検討、持つことで知識向上、活用していける事が理想と考える		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、少しでも疑問や不安がない状態での契約等を心掛けている。また随時、声掛けに努め、利用者や家族様からの理解は得られるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置により、意見や要望の受付に努めている。また各階の場や連絡の際にも、意見や要望を伝えて頂くしやすい関係の構築、コミュニケーションに努め、運営等にも反映できるよう努めている	請求書と共に写真や便りを入れて、日頃の生活様子が伝えられている。また、電話連絡の際なども、要望や意見の聴取の場となっている。家族会の再開や施設行事に家族を招待し、意見が収集できるよう努められている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	中々しっかりと時間を作る、聞く機会を設けるといっては厳しいが、少しでも職員意見の拾い上げ、聞いたことを改善、反映等へ繋げていく必要がある	事業所運営者の交代があり、総括担当者が運営者の代わりとなっている。総括担当者は、職員と共に働き、耳を傾け、休日を確保して子育てを応援するなど職員が働きやすい環境づくりなどに取組まれている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等についての把握は、概ねできていると感じるが、向上心に繋がるような環境、条件、対応が努められているとは言えない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際と力量に応じた研修機会を確保する以前に、個々の自覚、向上心に問題がある。その点を配慮しながら研修機会を確保、ケアの維持向上は厳しく感じられるが、協議しながら機会の確保、育成に力を入れようとしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、研修等の場への参加から同業者との交流、繋がりを通じて質の向上、研鑽の取り組みをしている。コロナ禍により研修形態も様々に変化し、学びや交流の仕方も変化したことは大きな点だと考えられる(zoom、リモート)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始初期は、本当に環境が変わって影響が様々に出易い。状態も変化しやすい中、よく観察し寄り添う姿勢を心掛け、安心して頂けるよう声掛けの工夫を含め、対応努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時より困りごと、不安ごとには耳を傾け、打ち明けて頂きやすいような傾聴、姿勢に努めている。サービス導入段階でも、改めて要望に耳を傾け、寄り添えるような関係作りを意識している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様自身が必要としていることを訴えることが出来ない、分からない事が多い。家族様の必要、家族様の理想が多いと感じられる中、少しでも御本人様にとっての有益や優先、理想に気付ける、寄り添えるサービス対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後のテーブル拭き、使用した御盆拭き、洗濯物の片付け等、生活動作の一部と一緒に頂く、また手放して取り組んで頂けることで生活空間を共に築き合う関係であることを感じて頂けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に外出したり行事参加と一緒に過ごして頂く場が持っていない現状ではあるが、電話や面談時、情報共有していくなかで家族様と御本人様の繋がり、絆を感じ、また職員も家族様の想いを感じながら共に支えさせてもらっている関係であると感じてもらえるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出制限から馴染みの人や場所との関係の途切れは厳しいものがあつた。対話傾聴時に懐かしむ気持ち、行けず会えず悔しい気持ちに寄り添うことも大切な支援と考える	コロナ後も面会の制限を設けているが、テレビ電話やズームなどで交流する家族もおられる。職員は本人の望んでいることややりたいことを聞き取り、早く実現できるよう努められている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの個性、特性、関係性の把握は行っている。孤立せずには部分は、利用者様の個性、特性において厳しいものがある。他者との交流を極端に嫌う方もいらっしゃる、それが大きな不穩に繋がる場合も有る為、個性特性への配慮を行いながらの支援も改めて検討、実施したいと考える		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、地域の方々として会議や行事の参加案内を通じ、関係を持たせて頂いている。気軽に疾病や物品購入等についての相談、支援、協力もさせて頂きたい事を案内している事で、庭の花の見学を案内して頂けたりと関係は大切に出来ている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調の確認、日中や思いや暮らし方、意向の把握に努めている。対話や訴えが困難な方も増える中、些細な表情や様子の変化も察知し、少しでも本人様優位、本位に検討対応している	利用者や家族から生活歴や思いを聞き取り把握した情報をミーティングや会議を通じて、職員間で共有されている。日頃の様子や表情の変化を察知して早目の対応が目指されている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境、サービス経過は入所までに家族様経由での聞き取り、情報共有が主となっている。入所後、対話傾聴の中で改めて知る、思いを聞き出させて頂き、把握する事も多い			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録用紙を適宜見直し、少しでも過ごし方、言葉、参加活動された内容や様子を記入しやすく、情報共有のしやすさに努めている。バイタルの変化変動も状況に応じて計測、記入したりすることで医療看護連携にも役立っている。情報伝達、他把握には連絡ノートも活用されている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍は会への参加が難しく電話対応が主となっていたが、開催されるミーティングの場の活用も行いながら課題やケアの実際等話し合い、介護計画の作成につなげる様に努めている	毎日計画通りにサービスが提供されているか記録され、その時の表情や言葉も記録されている。実施状況は職員のミーティングで話し合わせ、意見を基に介護支援専門員が計画を作成、見直しが行なわれている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録用紙の適宜の見直しを行い、記入しやすい、情報共有しやすい活用しやすいを心掛けている。また情報共有から実践の確認、情報の拾い出しにより見直しにも活用は出来ている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にも生まれるニーズにより行政への代理対応、受診対応、物品の購入だけでなくレンタル用品の要望があれば業者相談、仲介等々、家族様や利用者様の状況状態に応じての柔軟な支援、判断、連携に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近年、近隣の畑を借りての野菜作り、その収穫や野菜の調理した準備への取り組みや近隣公園を介しての散歩、保育園児との交流等々、利用者様本人の心身の力の発揮へとつながる様、楽しみを持って頂けるよう支援に努めている。散歩により筋力低下を改めて感じた方もいらっしやった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に突然の事故等による状態報告、情報共有は努めている。その上での様子観察や受診希望は相談を行いながら、実施している。受診以前に救急車対応等の支援も努めている	協力病院の受診と往診、訪問看護の定期的な訪問を受けている。医療機関と情報を共有し、利用者の状態把握に努められている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護専用ファイルの作成、活用を継続している。各階ごとの引継ぎを行い、状態の把握、情報共有に努めている。少しでも利用者様の以上の早期発見対応、また連携に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には最低限の入院に至るまでの経緯を含め情報提供を作成、病院への提出を心掛けている。入院目安の確認、1週間程度後に経過の連絡等がない場合には、教えて頂けるかどうかの連絡を取りながら対応しており、そのような関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて、入所当初の看取りの介護指針、看取りについての同意書以上に、話し合い、思いの聞き取りに努めている。地域資源の活用も意識し、全体として支援、ケアに取り組めるように心掛けている	入所時より看取りについて説明がなされ、同意書も作成されている。看取り期には医師や看護師、家族と十分に話し合い、事業所としてできる事に尽力されている。家族へも、同室に休んでもらうや、希望がある際には食事を提供するなどの支援も実施されている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	てんかんの有無により急変や事故発生時の訓練や知識向上も改めなければならないと感じている。コロナ禍も重なり、定期的訓練が厳しいままとなり、実践力は全体として乏しく感じ、一部職員の負担が増えている。皮膚剥離等は逆に、安易な対応をしてしまう者も増えており改めて周知、指導としないといけない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、防災、避難訓練等の定期的実践は行えて、認識の高さはあるものの避難の部分は訓練が乏しい。自治会長が会議に参加し、自施設を含め心配して頂けている点は大きく、協力体制を聞き続き意識しながら、もしもに備えての動きが必要と感じている	消防署の立ち入り検査で排煙装置の指摘があり、窓を開け転落防止柵を設けるなど対策がとられている。定期訓練や食料の備蓄、非常電源装置の確認等は実施されている。運営推進会議等にて、自治会長から地域防災訓練での連携などの提案をいただき、計画が模索されている	運営推進会議の席上に、防災に詳しい方を招き講習会をしたり、合同訓練の実施を通じて、事業所や地域の防災上での課題を共有するとともに、事業所の人材や備品など、機能を活かした地域貢献のあり方、防災力の高い地域づくりへの寄与に期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの部分への配慮は、とても難しく感じている。「言いたくありません」と健康確認の部分も配慮を尊重してしまうと難しくなってしまう。少しでも尊厳や尊重を意識し、言葉かけ、寄り添い方に気を付ける必要がある	入室時のノックや声掛け、入浴時や排泄時には入口を閉め、プライバシーを損ねないように配慮がなされている。職員間で対応に差が出ないように周知徹底に努められている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の思いや希望を少しでも表現したり自己決定できるように、声掛け、傾聴の工夫を行っている。聞き取りやすい言葉の選択や閉ざされた質問の活用、写真やイラストを見せての説明等		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	1日の流れがある中で、少しでも利用者様御本人様の希望するリズム、流れが少しでも優先されるように支援、ケアに努めている。寒さから調整の為に上着を重ねる重ねない、昼食後に横になる横にならない等にしても希望に添えるように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔後の化粧水使用や眉ペンシルを使用しての眉毛書き、白髪対策、ヘアバンド等々個々の拘りや思いによっての、その人らしい身だしなみやお洒落ができる様に支援を心掛けている。散髪についても、するしない、髪型や長さも、なるべく利用者様本人に選択してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼嚥下機能は個々に変化してきている。個々の好みや力を活かす、力に合った食事を楽しんで頂く為にも形態の変更や工夫は召し上がっている時の様子により対応する事もある。準備や片付けを一緒に厳しくなってきた	食材は業者が納品し、調理は職員がキッチンにて行っている。利用者の状況に合わせて、刻みやとろみにも対応されている。利用者の食べたい物が食べられるよう、配慮と努力が重ねられている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録用紙の活用により、食事の形態、残食、残食の種類等も把握しやすい。食事以外の水分摂取量の把握もしやすく、それぞれ摂取が少なすぎる場合には補給や引継ぎを行う等の対応もしやすい。状態に応じての対応、嗜好に合わせた提供も心掛けている(1日1回は緑茶の準備をする方など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に誘導や確認を行う事で、状態に応じた口腔ケアを実施している。自立度の高い方にも確認の声掛けをさせて頂き、実施している。また週1の訪問歯科による口腔内チェックや情報共有により、チェックやケアに努め、汚れの増加や臭い予防に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムの確認、把握を行い、少しでも汚染を減らし快適に過ごして頂けるように努めている。しかし認知症や他症状の進行により、オムツ対応になってしまう方も増えた。少しでも自立支援、残存機能維持を意識しながらも個々の状態、特性毎の排泄援助に努める必要があり、実施している	業者の協力を得て、講習会を実施するなど、トイレでの排泄と、不必要なおむつや尿取りパッドの使用を避けた排泄支援が行われている。夜間もトイレやポータブルトイレでの排泄支援に努められている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設提供の牛乳やお茶の水分補給の促しに加え、独自で対応準備のおやつ時にも少しでも便秘改善、排便を促すようヨーグルトやフルーツ等を含めて準備している。腹部マッサージや歩行運動等も個々で実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日事や時間帯は職員、行事等の都合が優先されてしまっている。入り方やタイミングについては利用者様主体に行われ、個々に応じての対応、少しでも入浴を楽しんで頂ける様に努めている	ユニット毎に一般浴があり、1階では特浴も備えられている。お風呂は毎日実施されており、ひとり当たり、週3回から4回は入浴できている。一般浴はマンツーマン、特浴は2人対応で支援され、ゆっくり入浴が楽しめるよう心掛けられている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢化や持病の安静の為、今まで以上に状況に応じての休息支援が増え、日中も入床臥床対応を適宜行っている。夜間は少しでも眠れるよう、巡視時の観察の仕方、介助の仕方も気を付けている。自立度の高い方は、少しでもより自身のペースでの過ごし方を尊重できるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルを作成しており、処方服用薬剤の把握、理解に努めている。また個別で薬剤師と居宅療養管理指導の契約を結ばれている方については、適宜今まで以上に薬についての情報提供、質問、確認がしやすく対応に努めることが出来ている。服薬前のダブルチェックも徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かす、力を発揮する、については利用者様個々の特性の差が大きい。特に食べる事については楽しみを持たれている方も多く、おやつ準備、行事イベント毎の少し特別なケーキやお菓子の準備等、楽しんで頂ける様に努めている。活動としては生活動作を可能な限り、参加取り組んで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍も重なり益々、その日ごとの希望要望による外出は出来なくなった、控えている。季節行事を検討する上で、花見ドライブ、花見見学だとしても何か所か選択肢がある中で希望を把握したり努めている。家族や地域協力の上での外出は行っておらず、今後の課題でもあと思うが家族自身の高齢化も進んでいる為、色々と検討が必要である	高齢化により、利用者一人ひとりの移動手段が異なる中であっても、近所の庭に咲く花を見に散歩に出かけるなど、外出の機会を確保されている。プランター栽培で花を植えたり、近所の畑を借りて野菜を育て、手入れや見学に利用者が往来することも外出の機会となっている。季節ごとの少人数のドライブなども実施されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	初詣参拝時には賽銭を御自身で持って頂いて、使用してもらっている。病院受診時には、支払いを職員が行う事が多いが金額の確認や支払い後の確認を一緒に行い、少しでも支援に繋がるように意識している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様や家族様の希望に応じて、事務所内の電話を使用しての対話の時間を持っていた。家族様の都合も有る為、事前に連絡を取り、電話の時間を決めて対応する事も有った。年賀状や手紙のやり取り、代読なども行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の快適さについては概ね、認知症や残存機能の程度に差が見られていても保たれているように感じている。刺激などの配慮も行いながら、季節感を感じて頂けるような屋内の装飾、作成物の展示も行い、居心地よくなおかつ楽しみも見出せる空間を心掛けている	建物の中央部分にキッチンや和室があり、周辺にテーブルや椅子が配置されている。それぞれお気に入りの場所に座り、体操や食事をしたりと、思い思いの時間を過ごされている。壁面には季節が感じられる、作品や掲示物を飾り、和やかに過ごせるよう配慮がなされている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、個々が一人一人のテーブルスペースや自席で一人での時間、自身のペースでの過ごし方が出来ている。共用テーブルを使用しながら、それらが厳しい認知症症状が見られる方に関してはテーブルを別に用意するなど、配慮工夫しながら対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お気に入りや馴染みの衣類、居室の整理ケース、鏡や椅子等、少しでも利用者様が御自身の居室と思い愛着がわくような居室整備、居室作りとつながるような支援を心掛けている。カーテンは個々で好みの色や物を準備して頂いたり等の対応も継続されている	入居にあたり、ご自分の使い慣れた食器や寝具、家具を持参してもらい、馴染みの物で居室が整えられるよう支援がなされている。カーテンも、好みの色や柄のものを持たせることが可能となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の特性に差が大きいですが、できること、わかることを少しでも活かしている。歩行車の活用、ポータブルトイレとベッドの位置、ベッド柵の配置やベッド柵の種類調整など。歩行や移動介助の動線確保も意識して環境整備に努めている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I.理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝食前の嚙下体操の後に、理念の言葉「笑顔で過ごしましょう」を利用者様と共に発声している。職員には何時も心掛けて業務に取り組める様に目に止まりやすい所に掲示している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会長より、協力や助言を頂き取り組んでいたが、コロナ感染予防から地域の子供達との交流は中止となっている。自施設として、保育所との交流のみ、さつま芋の芋掘り、ハロウィン時、餅つきの交流会はあった
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月間行事の内容のポスターを地域の商店に掲示して頂いていたが、コロナ禍により行事を縮小していた為、今まで出来ていた地域交流や認知症の人の理解、協力支援についての場を設けていたが出来ていない(認知症カフェも中止となった)
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のメンバーに行事参加をして頂き助言や感想を頂いていたが、コロナ感染の問題があり、出来ていない事多いが、相談をした内容等、全体会で話し合い質の向上に取り組んでいる
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に連絡を取り、より良い運営ができるように相談や情報収集を行なっている。積極的に協力関係が築いて行ける様に努めている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や勉強会を行い、全職員が正しく身体拘束を理解出来る様に身体拘束の勉強会を増やしている。各フロア等の階段出入り口等に関しましては、利用者様の安全面を考慮し、施錠されている場所もある
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から、どのような内容が虐待に当たるのかを勉強会やミーティングで指導している。外国人技能実習生も受け入れており、特に虐待のないように意識し合い日常生活の言葉遣いにも注意を払っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての学びの理解は施設としては乏しいが、利用者様が利用している方がおり、以前よりも学意識が強くなっている。知識の向上に努めて行きたいと思う
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に、入居者様及び家族様に契約諸や重要事項説明書等の疑問点等の無い様に、納得理解して頂けるよう時間を充分にとり、丁寧で分かりやすい説明を心掛けています。また利用者様の状況変化による契約解除の場合は、家族等に対応方針を説明し、可能な支援をしている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナやインフルエンザの問題から、日々の利用者様の意見や面会時の話し合いは少なくなっているが、家族会や推進会議に意見を頂いている。ご意見箱の設置を行ない家族ノートの対応も行なっている。要望等はミーティングで話し合い前向きに取り組んでいる。また随時連絡ノートで情報を共有し合い、早期に反映して行けるよう心掛けている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回全体会議とユニットミーティングで意見を聞いている。また各担当者において、個別に意見を聞く機会を設けている。変更や改善は可能な限り早期に対応するよう心掛けている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々個別に相談、助言等を行っている。個人の問題点や不安点等、早期の解決につなげて、成長やケアの質の向上に取り組んでいる
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の段階に応じた研修を勧めたり、指導を行なっている。また各個人が研修してきた内容について勉強会に取り入れ、職員全体を通じて質の向上に努めている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研修会等で、一語になった同業者と意見交換を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず色々な方向からゆったりと話ができる様に笑顔で傾聴できる様に努めている。ご本人様の訴えが聞き取れない時には家族からの相談が主となるが、不安なく施設入居できるように支援している
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様や家族様の思い、状況を確認しながら面接チェック表等を作成している。不安や要望等をより多く受け止められるよう努めている。要望等は全職員が共有できるように各ユニットファイルに保管して努めて対応している
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の説明を時間をかけて行い、御本人様、家族の実情や要望を元に何が必要かを見極め事業所としてできる限りの対応に努めて支援している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人にあった役割分担を考えている(洗濯物を畳む人、食事のお膳を拭いて頂く人、洗濯物を職員と一緒に干しに行く人等)
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室担当制を設けている。ご家族様の面会時に付き添って、利用者様の変化等、家族様に報告を行ったり、利用者様を支える関係を築いている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様等と連絡を取り、知人、甥、姪、孫等に面会にきて頂いたり、家族との外出や外食して頂いていたが、コロナ禍の問題があり、今は殆ど出来ていない
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お誕生日会や外出行事(おやつレクや外食レク)また、季節の観賞、散歩等を合同で行う事により、ユニットの違う利用者様との交流を深めているが、少人数の動きを取ったり、回数は以前よりも少なくなっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したご本人様や家族等に何かあれば何時でも相談や支援に応じる姿勢を示している。(介護用品の相談等)又引き続き運営推進会議等に参加して下さっている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族から各個人の生活歴を把握し情報を共有している。担当者とは別に月一回のミーティング等で確認している
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人が自分らしく生活して行く支援として、個人の歴史やサービス利用に至るまでの生活が維持できるように努めている。また、くもん学習療法時に昭和の出来事や情景文の内容から話を引き出している
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方が一目でわかる様に記録に記載している。個々のその時の表情や言葉も記録する様に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアプランのサービスが提供できているかどうか記録に記載している。介護支援専門員の三ヶ月評価とは別に毎月ミーティングを行い、情報共有、ケアプランの見直し、サービス実地状況を確認している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別通院ファイル、業務日誌、介護記録で対応しており、介護計画の見直しに活かしている。家族との連絡も健康面、精神面を中心に連絡し合っている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の状況の要望に向き合い、職員全体で話し合い連携出来ている。ご本人様の生活が安定し、支える事を念頭に置きプランの変更や物品の購入等、柔軟な支援に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の喫茶店や回転寿司の外出で、コーヒータイムやおやつを楽しんだり、お昼御飯を頂いている。近隣の公園への散歩や近隣住民に庭を開放して頂き、季節の木々や花を楽しまれていたが、喫茶店や回転寿司の外出はコロナ感染予防の為、出来ていない
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族からの要望を聞きながら適切な医療が受けられる様に馴染みのかかりつけ医や事業所協力医院へのスムーズな受診を支援している。又要望に応じて訪問診療の対応を行なっている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に健康管理について相談が出来る体制をとっている。個々が利用している訪問看護とも連携を取り施設看護職が利用者様の処置にもあたっている。利用者様に変化がある場合には、協力医院等の医師や看護職員と相談を行い、随時受診など対応を行っている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院と同時に利用者様の情報提供を行っている。入院中は馴染みの職員が見舞いを行う等していたが、病院から面会を受け付けて貰えずの状態が続いた。家族や病院関係者との回復状況等の情報交換を行いながらの退院支援は出来ている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方についてご本人様や家族様から希望を聞き、事業者で出来る限りの希望に添えるような支援を心掛け、方針を共有している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥等、利用者様の身体状態の急変や事故発生時に的確な対応ができる様、定期的な勉強会を行っている。また消防署職員に来て頂き、救急時の対応についての勉強会を実地、指導を定期的を受けていたが、今は出来ていない
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行い、災害時の避難誘導について指導を受けている。推進会議では地区の会長様に説明をして頂き話し合う場を設けている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助時、居室でのオムツ交換時に戸を閉める。入浴後の更衣時にバスタオルを掛ける等、プライバシー保護に努めている。個人の誇り、自尊心を尊重し、プライバシーの確保を統一し徹底している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事について、体調に合わせて形態等を変更したり、栄養状態の悪い利用者様には医師の指示のもと家族様と相談を行ない捕食を考える等、柔軟に対応を行っている。外出や行事参加についてもご本人様の希望や意向の尊重を行っている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同のスペースで過ごされる時間外、レクリエーションの参加等、個々の状態を配慮しながら柔軟に対応を行っている。個々の希望に添った暮らしを提供できる様に努めている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に添って地域の美容師の方に来て頂き、散髪や整髪の支援を行なっている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食、キザミ食の利用者様には見守り介助をしつつ、何のおかずであるか説明を行っている。毎日の食事のメニューをコミュニケーションを取りながら嚥下体操の後に説明を行ない食事が楽しめる様に支援している
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない利用者様へは、好みの飲料提供で増量を図っている。嚥下状態に応じて、水分確保ができる様に支援している。何をどれだけ摂取できたかわかるように日誌に記録し、一日の摂取量を把握できるよう努めている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別の口腔状態に応じて口腔ケアを行なっている。舌ブラシやスポンジブラシ等も使用している。又週一回歯科衛生士による口腔ケア、嚥下体操、口腔内の状態確認を行い必要に応じて歯科医受診等を行なっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのない利用者様には、定期的な時間排泄や声掛けによる排泄介助を行っている。個々の排泄リズムを把握できるよう工夫し、自立に向けた支援に努めている。プライバシーを尊重し、排泄介助を行っている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	通常飲んで頂くお茶以外に好みの嗜好品等で出来るだけ水分摂取をして頂けるように取り組んでいる。排泄チェック表を活用し、個人の管理、把握に努めている。出来るだけ下剤等を使用しない様に、運動への誘導等も工夫している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事や職員の都合の時間帯の入浴しかできていないが、長湯を好まれる方には体調に応じて可能な限り入浴を楽しんで頂けるように支援している。入浴は一日おきに行い汚染等があった場合には入浴日関係なくシャワー浴等も行っている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	腰痛のある利用者様には、痛み等に応じて居室で臥床による休息、浮腫の見られる利用者様には下肢挙上、寝返りの出来ない利用者様には、寝返り介助等を行っている。個々の体調管理に努め適切な休息や安眠の支援を行なっている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食事、食前の服薬確認を薬一覧表で確認を行い、介護記録への記入。個別受診ファイルを設け内用薬の確認、把握を徹底した支援を行なっている(朝・昼・夕の薬が一目で解るように赤・青・緑と色分けを行なっている)
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いを希望される利用者様に洗濯量みの依頼を行い、得意分野での力が発揮できるように支援している。常に感謝や励ましの言葉を伝え、張り合いや喜びを感じて頂ける様支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望や嗜好に応じて少人数での外出にも取り組み近隣の公園へ散歩に行っていたが、コロナ感染予防の為、中々出来ない。五類となり、近隣の喫茶店や回転寿司等は出来ていないが、保育園児との芋掘り、外での交流として散歩しつつ、普段と違った雰囲気を楽しんで頂いた。個々の希望も取り入れながら可能な限り、外出の支援も行いたい

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたいと思っている利用者様はいませんが、御本人様が希望された時にどのような対応を行なうか家族様と相談しながら支援している。また、参拝時にご自分で金銭に触れて御賽銭をして頂いている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人への年賀状の作成や送付の支援を行なっている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を活ける。ホールや食堂に季節行事の飾り等を飾り、季節感を取り入れ感じて頂いている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、気の合う利用者様で過ごして頂いている。また和室で休んで頂けるようスペースを設け、思い思いにくつろげる場所を設けている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや机、椅子等の家具を使用したり、好みの布団カバーやカーテン等の生活用品を使用して、御本人様が居心地良く、安心して過ごして頂ける様にしている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒時の骨折予防の為、フロアは圧縮素材が使用され、安全面を考慮している。机やソファの配置等、移動時の事も考えて生活支援を行っている